

ロシアより愛を込めて “June Bride in Russia”

ロシアのウクライナ侵攻を契機に、この国についていろんな実情が語られるようになりました。テレビには戦争の悲惨な状況が映りひどい政治の実態が伝わってきます。ロシアに対する反感を抱いていらっしゃる方も多いと思います。私もその一人です。

そんな時節に私は今月「ロシア文学紀行」の講演をしました。世界的文豪であるトルストイの大著「戦争と平和」の中で戦争の本質について語っているからです。戦争というものの原点に戻り考えてみるヒントにしたい、ということからでした。併せて人間の生き方を問うドストエフスキーの「罪と罰」も取り上げました。

ロシアを訪れたのが6月。“ジューンブライド”に至る所で遭遇しました。その時の美しくも楽しい写真を紹介しました。ここではジューンブライドについての記事と写真のみを紹介します。二作品については「名作の舞台を訪ねて」のページをご覧ください。



ロシアには「ジューンブライド」の慣習はないといえます。でも、太陽が輝き緑が最も美しい6月は新生活のスタートに最適なのかもしれません。

約1週間の滞在で出会ったカップルは20組を超えました。白いベールに純白のウェディングドレスの花嫁たちは木々の緑に映えて美しく輝いていました。

彼らは仲間に取り囲まれて記念撮影をしていました。私たちもその“撮影班”に加わったのです。おめでたい席。断わられるようなこともありませんでした。

「シャスリーバ！（お幸せに！）」

同行の通訳から教わったお祝いの言葉を投げかけると、ニコっとほほ笑んで応えてくれる花嫁もいました。

仲間たちが囃（はや）したてます。「ゴーリカ！」「ゴーリカ！」

「ゴーリカ」とはロシア語で「苦（にが）い」との意味。つまり「苦いからもっと甘いところを見せてくれ！」との呼びかけだといいます。そんな声がかかると、カップルはひしと抱き合い熱くながーいキスを何回も繰り返したのです。

周囲は「アジン(1)・ドヴァー(2)・トゥリー(3)！」とその長さをカウント。それを“撮影班”がカメラに収める。私たちもその後列に加わったのです。

少々お堅い文学作品の取材旅に思いがけずも心温まる光景をプレゼントしてくれたのでした。



新郎は力持ちでなくっちゃいけない



「わたしの唇から飛んで行くわヨ！」



夢心地になって運河に落ちないでね



みんなで跳ぼう“幸せのジャンプ！！”